

日本霊長類学会(PSJ37) 自由集会

日時 2021年7月16日(金) 午後1時-4時 オンラインにて開催

大型類人猿と人の関わりの変遷:過去・現在・そして未来に向けて

人は古来より様々な動物と関わり合って暮らしてきた。一言に動物との関わりと言っても、関わり方は時代や価値観の変化とともに変遷してきた。動物の生態や認知などの理解の深まりや、社会の要請により、過去には当たり前だった関わり方を改めることも多くある。様々な考え方がある中で適切な関わり方を考えるためには、動物と人双方のメリット・デメリットを客観的な根拠をもとに議論する姿勢が重要となる。今回、大型類人猿を対象として、過去から現在にかけての関わり方の変遷を様々な立場から紹介する。大型類人猿は古くから野生・飼育下での調査が行われてきており、彼らを巡る考え方もその中で大きく変わってきた。過去・現在を振り返ることで、これから先にわたしたちはどのように彼らと関わっていくのか、考えてみたい。

申込方法

大会参加者以外で、自由集会に参加を希望される方は、下記フォームに情報をお書込みください。参加者には後日、オンライン集会へのアクセス URL をお知らせします。URL の第三者への無断での転送はご遠慮ください。どなたでも御参加いただけますので、ご興味のある方には下記より登録を勧めてください。



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSchD1ZAVsniGQOa71_C8KOTIJHvcA-CAKEHTtMlfPVIIGYlAQ/viewform?usp=sf_link

自由集会スケジュール

1. 企画趣旨説明 山梨 裕美 (日本霊長類学会 保全福祉委員会 / 京都市動物園)
2. 話題提供

竹ノ下 祐二(中部学院大学 看護リハビリテーション学部理学療法学科)

大型類人猿保護それ自体が「市場経済化」している現状、エコツーリズムも動物園も自然番組も大なり小なり「エンタメ化」している。であるならば、「エンタメ利用反対」ではなく、「よいエンタメ」「悪いエンタメ」の線引きをしなくてはならない。しかしそれは可能だろうか？

大塚 亮真 (京都大学 野生動物研究センター)

ゴリラ保全の歴史と現状:ゴリラ保全と現地の人々との対立、ゴリラの個体数増加という成功、現在の現地の人々とゴリラ保全との関係やエコツーリズムの引き起こす問題について等を紹介する。

赤見 理恵 (公益財団法人 日本モンキーセンター)

動物園のチンパンジー飼育展示の変化:今では動物福祉や環境教育をうたう動物園が多いが、その成り立ちを考えれば野生からの搾取はあったわけだし、積極的な人工保育やショーなどもあった。野生動物に関する知見の蓄積や社会からの要請などにより変化する動物園の飼育展示について、日本モンキーセンター(JMC)を主な事例として紹介する。

森村 成樹 (京都大学 野生動物研究センター 熊本サンクチュアリ)

チンパンジーなどの大型類人猿は、主に医学と心理学において重要な研究対象だった。1990年代から絶滅危惧種として保護されることとなり、不可逆的で拘束が強い実験は社会的批判にさらされて排除されることとなった。実験動物としての大型類人猿のこれからを考えるにあたり、熊本サンクチュアリでの試みを紹介する。

3. 総合討論

ディスカッサント

樺沢 麻美 (京都大学 アフリカ地域研究資料センター)

中村 美穂 (自然科学映像ディレクター)

主催 日本霊長類学会 保全福祉委員会

世話人:山梨 裕美, 徳山 奈帆子